

ヘリコプターで岩石を撤去

【新得】道道忠別清水線の工事現場（町屈足トムラウシ）で、ヘリコプターが活躍中だ。道路のり面から、崩落の危険がある岩石を撤去する際、現場環境が悪く、人力での運搬も困難なため、ヘリをまとめて運び出している。「土木工事ではヘリを使うのはあまりない。全国的にも珍しい工法」（宮坂建設工業）という。厳寒の山中での、ヘリを使った工事の様子を紹介する。

（井上朋一）

臨時ヘリポートから飛行するヘリ（24日午前10時半ごろ）



宮坂建設工業が道道工事で

高さ最大約170㍍、最大幅約230㍍、平均斜度40度のり面約4移の施工現場から、約1000トの結果、ヘリを選択した。

崩れやすく現場環境悪い場所で

岩石を取り除く。こうした工事では一般的に、斜面に鉄柱を立て、ワイヤを渡してロープウェイ式に岩石を降ろす方法が取ら

れる。同現場では岩が風化して崩れやすく、斜度もきついため、リスクを考えた結果、ヘリを選択した。

撤去する岩石は、あらかじめ人力で小さく割り、「モッコ」と呼ばれるカーボンネットで包んでおく。ヘリには長さ約40㍍のワイヤを搭載。臨時の岩石置き場とのり面間の数百㍍を2、3分間で往復する。1回の運

搬で約1トの岩石を安全な場所へ移したまま、岩石はダンパー車で運び出す。ヘリを運航する朝日航空（東京）札幌航空支社の菊地

道道忠別清水線の道路のり面に向かうヘリ（24日午前11時ごろ）
「モッコ」に包まれ、ヘリで運ばれた岩石の山

